

氏 名：松永 佳子

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第 123 号

学位授与年月日：2014 年 3 月 10 日

学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論文審査委員： 井部 俊子（聖路加看護大学教授、主査）
中山 和弘（聖路加看護大学教授）
堀内 成子（聖路加看護大学教授）
加藤 邦子（宇都宮共和大学）

博士論文審査結果

審査日：2014年1月22日

2014年2月14日

研究科委員会提出日：2014年2月25日

看護学研究科博士後期課程	氏名	松永 佳子		
専攻分野	看護管理学			
論文題名	「第1子を迎える夫婦が互いに期待する役割調整プログラム」の開発と評価			
審査委員	職名・専攻他	氏名		
	主査	学長・看護管理学	井部 俊子	井部俊子
	副査	教授・ウイメンズヘルス・助産学	堀内 成子	堀内成子
	副査	教授・看護情報学	中山 和弘	中山和弘
副査	教授・家族社会学	加藤 邦子 (宇都宮共和大学)		

審査の合否および評価 (Ⓐ・否)

本研究は、夫婦にとってライフサイクルの移行期である妊娠末期から産後1ヶ月までを新たな生活の構築時期と捉え、産後の生活を予測するための〈知識提供〉、産後の生活における役割調整のための〈話し合い〉、退院後の生活の〈スケジュールの作成〉から構成される「第1子を迎える夫婦が互いに期待する役割調整プログラム」を作成し、実施前後の指標を比較する評価研究である。プログラム実施前、実施後1週間さらに産後1ヶ月の3時点の回答が得られた63組の夫婦を分析の対象とした。産後の生活に向けた夫婦間の役割調整については、プログラム実施前と実施後1週間の「家事行動全体」と「育児行動全体」の妻の期待得点と夫の遂行意欲得点は有意な相関を示した。しかしプログラム実施前後の相関係数は、有意差がなかった。育児行動全体はプログラム実施前の夫と妻では有意な相関を示さなかったが、育児行動のなかの「授乳の手伝い」は、プログラム実施後1週間で有意な相関を示した。夫婦関係満足度は、プログラム実施前後の夫婦の得点に有意差はなかった。家事行動における「食事の後片付け」、「洗濯」、育児行動における「授乳の手伝い」が妻の期待と夫の遂行意欲が高い群は夫婦関係満足度が有意に高かった。精神的サポートは、プログラム実施後の夫婦の相関係数は低下した。その他、夫のつき合いの頻度、帰宅時間は有意な差はなかった。産後1ヶ月の夫の妻に対するサポートは、その後の夫婦関係や育児に影響するといわれており、妻の妊娠中に産後の生活を予測して役割調整を行う本プログラムが、妊娠中の保健指導の一環として実施することの必要性が考察された。

審査では、研究目標に記述されている概念と測定変数（操作的定義）が明示されておらず、どうなったら仮説が支持されたことになるのかを示すこと、プログラム開発と実施をていねいに記述すること、夫婦の得点の分析方法、図表の示し方、結果と考察の記述内容について修正をもとめられた。指摘にもとづいて研究者は仮説を整え、変数を整理して分析を行った。その結果、修正は適切に行われたことが確認された。

以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定された。